

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。このテーマについて考えるために、^{わたし}私たちは、7月25日、名古屋高速道路公社の施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは道路パトロールカーやモバイルマッピングシステムの車と、^{かんせい}交通管制室のグラフィックパネルと、安心して高速道路を利用できる工夫を見ました。

そして、^{じこ}事故や^{たいおう}じゅうたいが起きてもスムーズに対応して安心・安全に備えられていることがわかりました。

その後、^{わたし}私たちは施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために、道で危^{あぶ}ないなと思ったところを市などに簡^{かん}単^{たん}に通^{つう}報^{ほう}できるアプリを提^{てい}案^{あん}したいと思います。

例えば、横断歩^{おうだん}道の線がうすくなっていたり、道路標^{ひょう}識^{しき}が木でかくれていたたり、ガードレールがこわれていたり、点字ブロックがはがれているなどを見つけたとき、知らせることができます。いち早く異^い変^{へん}に気^きづけて事^じ故^こを防^ふぐことができるかもしれません。このアプリがあれば、まちのみんなでまちの安全を守ることができると思います。

○子ども議員

ぼくは、事^じ故^こがなくなるために、車やバイクなどを運^{うん}転^{てん}する人に呼^よびかけることが大切だと思いました。

また、ごみを高速道路に捨^すてる人を少なくするために、また呼^よびかけることが大切だと思いました。

○子ども議員

名古屋高速道路公社の交通^{かんせい}管制室は、交通管理をして、じゅうたいや事故^{じこ}が起こっても次の事故^{じこ}が起こらないようにするために、スムーズ^{たいおう}に対応し、24時間365日ずっと見守ってくれると思いました。

運転する人が思いやりの気持ちを持って運転をしたほうが、「安全で安心してくらせるまちづくり」ができるようになると思います。

○子ども議員

もし高速道路がなかったら、食べ物をほかの県に送ったり、行きたい場所に行けなかったりすることがあります。でも、高速道路があるおかげで、1時間で愛知県の外へ行けたり、県内でも短時間で行くことを知り、ぼくはこの高速道路はとてもよい働きをしていると思いました。

名古屋高速道路公社の方の話を聞いたり、見学して、ぼくたちの生活には絶対^{ぜったい}に必要なだと思いました。また、ここで働いている方々、特に整備^{せいび}をする人の仕事は大変重要だと思いました。

○子ども議員

愛知県では、500万台の車があり、その中の約30万台が名古屋高速を走っています。1日に30万台の車が走るわけなので、当然事故の危険があります。それを守っているのが、私たち第6委員会が行った名古屋高速道路公社です。その中にある交通管制室は、365日24時間体制で私たちを見守ってくれています。また、事故があると、すぐにパトロールカーが助けに来てくれます。この人たちのおかげで、私たちは車に安全で安心に乗れているのです。

私は、名古屋を安心・安全にらせるまちにするために、この取り組みを道路にも広げていきたいと思いました。

○子ども議員

事故が起きても非常電話というものがあるので、すぐに交通管制センターにつながるのがすごいと思います。しかも、防音仕様がされているおかげで話がしやすいというところも印象に残りました。

そして、交通管制センターは24時間365日働いています。なので、いつ事故が起きても安心して暮らせるということがすごいと思います。そして、クッションドラムのおかげでしょうげきを最大限に減らし、けがなどをする確率が大はばに減ります。そして、車同士がぶつかって火災が起きたとしても、専用の消防車が来てくれるので、すぐに火を消せることができます。

これらは全て高速道路と交通管制センターが24時間365日働いてくれているおかげだと思いました。

○子ども議員

名古屋高速道路公社の交通^{かんせい}管制室には、グラフィックパネルに名古屋高速のじゅうたいや事故^{じこ}の様子が色分け^{えいぞう}や映像でわかりやすく表示^じされていました。

私^{わたし}たちの車のナビは、じゅうたいの情報^{じょうほう}を教えてくださいますが、出かける前に道路^{じょう}状況^{じょう}がわかるといいと考えました。

そこで、私^{わたし}は、グラフィックパネルの情報^{じょうほう}をケーブルテレビで放送できるといいと思いました。

そうすれば、出かける前に道を変こうでき、じゅうたいや事故^{じこ}に巻きこまれずに安全に安心して目的地に着くことができると思います。

○子ども議員

ぼくは、事故^{じこ}の一番の原因は、スピードの出し過ぎ^すだと思います。車のレースを見ていると、車が事故^{じこ}を起こすとペースカーが車の前に入ってゆっくり走らせます。それと同じように、高速道路のカメラで速く走っている車があったら、個別^{けいこく}に警告^{けいこく}をして、それでもスピードを落とさなかった場合は、その車の前にペースカーを走らせて強制的^{きやうせい}にスピードを落とさせればいいと思います。

そうすれば、スピードを出し過ぎ^すている人がいても、ペースカーを使っておさえられるので、事故^{じこ}が減^へり、「安全で安心してくらすことができるまち」に近づくと思います。

○子ども議員

ぼくが施設^{しせつ}見学で学んだ中で最も印象に残ったものは、ドライバーを守ることができるクッションドラムです。

もし事故^{じこ}が起こっても、クッションドラムがあれば、事故^{じこ}のしょあげきで飛んできた人がコンクリートに直接^{ちよくせつ}当たらずに済みます。そして、ドライバーたちが大けがをすることなく、命が助かる確率^{かくりつ}が何倍にも上がります。

事故^{じこ}が起こらないのが一番ですが、「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、このクッションドラムは欠かせないなと思いました。

○子ども議員

ぼくは、道路パトロールカーでも警察^{けいさつ}のパトカーみたいに厳しく^{きび}取りしまりができるようにしたいと考えました。今の道路パトロールカーは、重量^かちょう過などの注意はできますが、あおり運転や速度オーバーなどは注意することができません。

そこで、警察^{けいさつ}のパトカーみたいに違反^{いはん}車を追いかけて注意できるようにしたら、運転手は安全運転を心がけるようになるし、事故^{じこ}を減らすことができると思います。

○子ども議員

私は、高速道路の整備がとても大事だと思いました。なぜなら、高速道路のメンテナンスなどをしないと、コンクリートが傷み、悪くなって危険になってしまい、高速道路を利用する人が安心・安全に高速道路を利用できなくなってしまうので、日々のメンテナンス、悪いところを直す工事が必要です。

その工事を日々欠かさずしてくれる人がいるから、私たちは高速道路を安心・安全に利用できるんだと思いました。

○子ども議員

私は、交通管制室のグラフィックパネルに興味を持ちました。

グラフィックパネルは、異常が起きると緑、しゅ、赤の3段階に分けられていたり、びっくりマークなどのマークで分けられているので、事故が起きてもすぐに対応できるように24時間365日動いています。すごいなと思いました。

わたし

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第6委員会の発表を終わります。

■ 沢田都市消防委員長の答弁

第6委員会のみなさん、大変3日間という限られた時間の中で、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」ということをテーマに、施設見学や話し合いを通してみなさんの提案や意見をうまくまとめることができました。本当にお疲れさまでした。施設見学に行きました名古屋高速道路公社は、そこでは高速道路の構造や設備、また管制室やそこで働く車などを見学することができ、またパトロールカーには実際乗ることもできましたし、管制室では事故の処理に当たる姿も見ることができました。



名古屋高速は、先ほどの意見発表にもありました1日30万台以上の車が利用しております。高速道路があるおかげで、人々の生活や仕事に大きくこうけんしているという反面、一つ間ちがえれば重大な事故により命を落としてしまいかねないという、こういう危険性の両面を持った大事な大事な社会の基ばんであるというふうに考えております。

みんなは、こうした高速道路が持つ機能、それからそこで働く人たちの責任をしっかりと理解して、子ども委員長、子ども副委員長を

中心に、的確^{かく ていあん}に提案をまとめることができました。特に、一人一人の意見発表の中では、安全で安心して高速道路が利用できるため、ふだんは目立たないけれどもかげで命がけで働いている人や物に光を当てることができ、感謝^{かんしゃ}の言葉を、気持ちをあらわすことができました。

また、未然^{じ こ}に事故や違反^{いはん}を防ぐ具体的な提案や、利用者をふやすアイデアまでひろうしていただくことができました。理解^{り かい}するまで何度も質問^{しつもん}をしてくださったり、またみんなを助けるような提案^{ていあん}や質問^{しつもん}をしてくれました。そんな姿^{すがた}を見て、大人議員である我々^{われわれ}も大変に勉強になりました。ありがとうございました。

そんなみなさんだからこそ、第6委員会の議事がスムーズに進行するようにかげで見えないところで準備^{じゅんび}をしてくださった市会事務局の山田^{やまだ}さん、川北^{かわきた}さん、竹内^{たけうち}さん、そして教育委員会の柴山^{しばやま}先生への感謝^{かんしゃ}の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

最後になりましたけれども、議事進行にご協力をいただきました吉田^{よしだ}副委員長、そして大村^{おおむら}副委員長に感謝^{かんしゃ}を申し上げまして、私^{わたし}の答弁^{とうべん}とさせていただきます。お疲れさまでした。

